

令和元年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

(個人留学による帰国報告)

●氏名

O.Sさん

●留学先

国/都市：アメリカ合衆国/ Coeur d'Alene (アイダホ州)

外国の高校：Lake City High School;

●留学期間

2019年8月20日～2020年1月13日

●留学先での活動、留学で学んだこと

私は8月21日に交換留学を始め、数々の刺激を受けて1月16日に帰ってきました。私はこのレポートでその刺激や学んできたことを記したいと思っております。

8月：アメリカに向かって出発し、早速ハプニングにあいました。ニューヨークに向かってミネアポリスで乗り継ぎを行っていたところ、フライトがキャンセルになり、一晩をミネアポリス内で過ごしてニューヨークのオリエンテーションに参加することになりました。この時、一人で渡米していたため、自分で留学団体に連絡し、フライトを予約し、留学団体が用意してくださった緊急ホストファミリーにお世話になるなど、普通では経験できないことを苦労しながらも経験することができました。オリエンテーションでは遅れた時間を埋め合わせようと自分でも焦っていたため、積極的に交流し、最終的にはアイダホで過ごす中で、とても頼りになる友達を作りました。

9月：ホストファミリーの家に着いてからの数日はポーティングなどのアクティビティをして過ごし、そして学校が始まりました。友達ができるかが心配だったのですが、初日からたくさんの人と知り合えて、そのうちの一人は最後まで親友として付き合っていました。また、学校の授業も面白いものだと思いました。私の受けていた授業は数学、英語、マーケティング、即興劇、アメリカ史、スペイン語、サバイバルサイエンスと体育の8教科でした。中でも私の好きな教科はマーケティング、即興劇とサバイバルサイエンスでした。マーケティングの授業では学校の売店を運営したり、自分でキャンペーンを作ったり（CMづくりも含

めて)、大会などに出場したりしました。即興劇ではゲームやショーを行いながら、パントマイムやアドリブカを使ってパフォーマンスを行いました。この授業のおかげで表現力のほか、頭の回転が早くなった気がします。サバイバルサイエンスの授業では、身の回りにある最低限のものでどうやって身を守るのかを学びました。また、先生がプロの方だったこともあり、世界中の被災地の人たちへのトレーニングで動画を撮り、シチュエーションごとに実際にトレーニングを行いました。私はこの授業のおかげで災害などに興味を持ち始め、日本でもそういったトレーニングができるように何かしらの行動を取りたいと思います(授業でやったように動画を作ったり、地域で災害のトレーニングセッションを行ったり、ファーストエイドの免許が取りたいです)。このように、アメリカの学校では自分のやってみたかったことを全て体験することができました。

10月：この時期になると、アメリカの高校ではホームカミングというダンスイベントが開催されます。みんなホームカミングに向けてアメフトで盛り上がったのち、準備をし始めます。私は驚くことに2つのホームカミングに行くことになりました。

一つは友達と、もう一つは彼氏役と行きました。私はこのイベントで一番高校生らしいことをしたなと思います。

このイベントの他にハロウィンがありました。私はこのハロウィンで初めて自分でハイクオリティーな仮装をし、トリックオアトリートにも参加しました。友達と家族のみんなで家を回ってはお菓子を数えたのはいい思い出です。

11月：この月は留学期間の中で最も忙しかった月だったと思います。まず私は手術を行い、その直後にニューヨークにマーケティングの授業で行きました。ニューヨークでは実際にメーシーズなどといった会社などを訪問し、マーケティングとはなんなのかということを知ることができました。

また、ニューヨークから帰ってきたらまたすぐにサンクスギビングをやりました。サンクスギビングというのはアメリカとカナダのみの祝日で家族と集まり、一緒に時間を過ごす日です。普段会えない家族とゲームなどをして距離を縮められたきっかけになりました。

しかし、たくさん楽しいイベントがあった中、問題も存在していました。そのうちのひとつはホストファミリーとの関係です。この時ホストファミリーとのコミュニケーション不足で少し困っていましたが、何を話してもお互いにギクシャクし、話し合いをしようにもできない私の背中を押してくれたのはオリエンテーションであったイタリアからの留学生でした。彼女はとてもポジティブな子で、辛いときには一緒に行動をして元気付けてくれました。中でも一緒にやったことで楽しかったのは彼女に家に泊まりに行ったときです。勉強やプロジェクトに追い

やられていた私に、無理やり気分転換をさせてくれました。一緒に料理をし、ゲームなどしたひとは大切な思い出です。また、彼女のおかげでちゃんと問題に向き合うことができ、家族との関係性もよくなりました。彼女には感謝をしなくてもしきれません。

12月：アメリカで過ごした最後の1ヶ月はただただ楽しいものでした。まずマーケティングの大会に参加し、他校にも友達ができるなど、人との関わりが増えました。また、ワシントン州のコーディネーターさんの家にも行きました。一週間ほど滞在したのですが、アイダホのコーダーレインとまた違う雰囲気の良い気分転換になりました。コーディネーターさんと地域のミニイベントにたくさん参加したことで、私は地域の人々と関わることで日々の活力を得られることを知りました。

ホストファミリーのところに帰り、一緒に過ごしたクリスマスは日本とは違って家族と盛大に祝っていました。12月になった途端に Elf on the shelf などといったアクティビティを行い、クリスマス当日にはみんなで一緒にプレゼントを開けました。自分は今までこのように家族全員で何かを祝ったことがなかったので、家族の温かみを知るいい経験になりました。また、家族へのプレゼントに家族全員の名前と留学生全員の名前がほってある看板を手作りし、プレゼントしました。現在でも家に大切に飾られているそうです。

クリスマス後は年越しです。アメリカの年越しは日本と違って特定の風習がなく、とても気軽なものでした。クリスマス時には教会を中心にイベントがありましたが、年越しは祝わないことを知りました。宗教別に祝日というのが存在していて、自分の常識は他人の常識ではないのだと改めて感じました。

1月：健康を理由に帰国が言い渡されて、最後の数日間私は友達と時間を過ごすことに決めました。みんな私が帰ることを残念がっていましたが、無駄な気を使わずに精一杯遊べたのは良かったです。お互いに相談しあえる友達ばかりだったので、彼らに会えなくなるのは寂しいです。将来大学生になったらまた遊びに行けるといいなと思います。また、家族と離れるのもすごく寂しかったです。

けれど最後の数日もいつもと変わらず一緒に過ごしてくれたので、「これでお別れなんだ。。。｣と感じずに精一杯楽しむことができました。わからないことがたくさんあり、迷惑をたくさんかけてしまったホストファミリーでしたが、ちゃんと向き合って家族として認識してくださったことには心から感謝しています。また大学生になったらまたコーダーレインに遊びに行きたいと思います。

ホストファミリー：私のホストファミリーは6人家族で4人の子供のうち3人が年下の子でした。3人家族で兄弟など持ったことのない私からしたら、彼らと住む

ことは正直言って大変でした。彼らとどう接していいのかわからなかった上、賑やかな家庭でどう勉強に集中すればいいのかが全くわかりませんでした。しかし、この4ヶ月間を経て、彼らと本気で遊ぶうちに彼らとの付き合い方などが分かってきました。今となっては兄弟全員が可愛いので、まだ一緒にいられたらと思います。私の両親もすごくいい方でした。何か問題があると一生懸命に解決の手伝いをしてくださり、私が留学を楽しめるように常に心がけていてくれました。コミュニケーション不足からギクシャクした時期もありましたが、ちゃんと話そうとしたら何も隠さずに話してくれるのもいい点です。彼らのおかげで自分の性格について沢山学べました。彼らと時間を過ごさなかったらいま見えている自分は見えていなかったと思います。

まとめ: この留学を通して私は健康問題をはじめとする数々の壁にぶつかってきました。中でもコミュニケーションはすでに他の人よりうまく英語を話せる私にとっては大きな壁でした。英語を流暢に話せるからこそ、伝達ミスや心の打ち明けかたに苦労しました。留学中にたくさん失敗し、たくさん泣いたのは人として成長するいい経験だったと思います。留学というのは楽しいだけでなく、今まで知らなかった自分を見つけ、葛藤するものだ学びました。今回私は理由はともあれ、途中で帰ってくるという残念な結果に至りましたが、留学で得た経験を残りの高校生活に活かせると確信しております。残りの高校生活は今までと変わらず、自分のしたいことをやり続け、かつ留学での失敗をもとにより良い決断をしていきたいと思います。今までサポートして下さったみなさま、本当にありがとうございました。